駒次郎先生の思い出

山　口　廣　司（93期）

駒次郎先生が召天されて10年がたつ。

私が大学４年生の前期試験中、簿記を履修していた後輩に、偉そうに試験対策を施していたときに訃報を聞いた。

「多少お体が悪いと聞いてはいたが、まさか……」

が、実感だったろう。

当時、私はサッカー部に所属しており、サッカー部の商学部所属の学生は、駒ゼミにお世話になっていた。

野球部筆頭に、体育会所属の学生が多いのも駒ゼミのウリであった……のだろう。

３年生になり、なんとなくゼミをこなしていると、最初のイベントがやってきた。

「博多山笠の桟敷の整理券を確保しろ！お駄賃1,000円也」

どうやら、学会が福岡で開催され、山笠の期間にあるらしい……。

当時、なぜかしら先生の横に座って、ブツブツ言っていた私のところにお鉢が回ってきて、私を中心に屈強な？徹夜部隊が結成された。

後にも先にも、あんな思いをしたのは初めてだった。最初は酒を飲みながら椅子に座ってワイワイやっていたが、やはり睡魔が襲ってくる。

ふと耳を澄ますと、我々以外にもアルバイトで徹夜をする若者たちが結構いた。当時、現在もだが、たいして山笠に興味を持っていなかった私であるが、どうやらこの整理券は貴重な品物らしく、企業から￥10,000で雇われている若者がいるのだ。

「なんてこった、あのおやじめ！」

これが率直にでた言葉であった……。この瞬間、今度のゼミが終わったら、朝美で飯をおごらせてやることを固く心に誓った！

そして、ゼミ終了後、駒次郎先生を朝美に連れて行った、いや先生から連れて行ってもらった。当然、徹夜部隊以外のゼミ生も参加したりして、ただのゼミの飲み会になってしまったのだが、それはそれでいいことだと自分に言い聞かせた。

今思えば、数少ない駒次郎先生との酒宴のひとコマである……。

余談ではあるが、この桟敷の整理券、私の嫁の母の手に渡っていたことが分かるのは、ずっと後のことである。

駒ゼミにおいて３年生時のビッグイベントといえば、駒うどんであることは、先輩方からの伝統である。

特に、うどん作成において、駒次郎先生との思い出は無いのだが、当時の４年生の人達が親切に指

導をしてくれていたのを覚えている。

しかしながら、

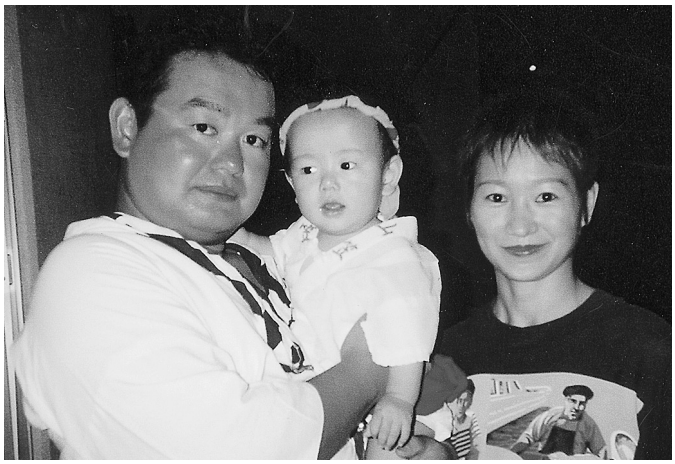
「私たちには私たちのやり方がある」

と、思っていた人もいたようだ。特にスープについては……。

このとき、私は、

「俺が４年になったら、親切も程々にしよう……」

と思った。



駒うどんの売り上げは、とある福祉団体（覚えて無くて申し訳ない）に寄付するのと、ゼミ旅行に使われる。ゼミ生の一人が嬉野出身ということもあり、嬉野温泉に行くことになった。大型免許を持っている人がいなかったので、自動車部卒業の小林明人大先輩を、運転手として駒次郎先生がスカウトしてきた。小林先輩ありがとう！

それでも定員オーバーだったので、私の車が借り出された……。

当然、夜は宴会。お目付け役の奥様もいらっしゃったので、羽目をはずすことはできなかったが、定番のキリンビールラベルクイズは披露された。当時の私には新鮮なクイズであり、新しい知識となって蓄えられた。

そして、宴会後はマージャン。小林先輩も交えて卓を囲んだ。

「チャーンチャチャーン♪」

と、自分でファンファーレは鳴らしながら、順調に積もっていく先生。

ハネ満直撃してごめんなさい。

このころ、当然、ハワイにも一緒に行くことをこれっぽっちも疑ってなかったよ、駒次郎先生……。

４年生になるころには、私の就職も決まっていた。先生が以前、勤められていた専門学校が就職先である。ちょっぴり、駒次郎先生と関係のあるところに就職が決まり、自分勝手に縁を感じていたが、さらに、縁が深まるのは、もっと後のことである。

駒次郎先生の最後の誕生日。私にとっては最初で最後のお誕生会。

サッカー部の先輩、同期と朝からご自宅へお邪魔する。

そして、なぜか、夜まで先生と一緒にいた。

多くの先輩方とあえて、たくさんの時間を先生と過ごせた１日であった。

最後に私事を。

現在、私、32歳。家族構成は妻一人、子供一人。

私の嫁は、駒次郎先生の姪である。嫁の自宅に行くと、たまに駒次郎先生の話もでる。

親戚として、一緒に飲みたかったよ、駒次郎おじさん！